

令和3年度 施策評価シート

まちづくりの目標	5	ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
施策目標	5	【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
施策の展開	① ② ③ ④ ⑤	文化ホール事業の充実 市展開催事業の拡充 文化団体の支援 歴史文化遺産の保存活用と継承 文化芸術の推進

施策担当課	文化・スポーツ課
関係課	文化・スポーツ課 社会教育・文化財課 植野記念美術館

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の鑑賞・体験ができる機会の充実が図られ、「行ってみて良かった」「良い時間が過ごせた」「心が安らいだ」と感じる時間を過ごせています。 文化芸術活動が活発に行える環境整備が進んでおり、文化芸術に携わる人が増え、若手の芸術家が少しずつ育成されています。 子どもたちの記憶に残る文化芸術の鑑賞・体験機会が増えたことにより、豊かな感性や情操を育むとともに、生まれ育った郷土への愛着が醸成されています。 文化芸術に関わる人たちが一つの輪ができ、魅力あるまちになっています。また、少しずつ交流人口が増え、祭り等の伝統文化や歴史的な街なみが活用されています。 市民が優れた芸術作品や歴史文化遺産に触れ、また、自らも芸術・文化の表現や創造に努め、地域の歴史文化遺産の保存と活用に関わっています。
----------	--

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
成果指標	1年以内に市内の文化ホール等が行う舞台芸術・音楽コンサートや美術館等が行う美術展等へ行ったことがある市民の割合	%	目標	50.00	47.00	47.00	47.00	47.00	47.00		
			実績	37.90	26.10	31.10					
	1年以内に地域の伝統芸能や伝統行事へ参加した、または鑑賞したことがある市民の割合	%	目標	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00		
			実績	51.10	34.90	31.20					
				目標							
				実績							
コスト	人件費	千円	実績	102,978	125,325	127,237	133,996	136,204	136,204		
	事業費	千円	実績	159,834	398,037	135,869	159,655	158,488	158,488		
	計	千円	実績	262,812	514,362	263,106	293,651	294,692	294,692		
	うち一般財源	千円	実績	186,700	297,670	237,828	259,269	260,234	256,578		

※評価年度は実績、計画年度は予算

3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年に「文化芸術振興基本法」制定。平成29年に「文化芸術基本法」に法律改正され、市町村の文化芸術の推進に関する計画についても、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等、文化芸術など“他分野との連携”が求められるようになった。 文化財を維持管理する人が高齢化しており、郷土の文化財に対する若者の意識を高めるためにも、文化財活用を推進する必要がある。
市民ニーズの動向	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度・3年度は、新型コロナウイルス感染対策のため、公演実施に当たり座席制限や公演延期などのため、鑑賞者数が減少しているが、質の高い舞台芸術が鑑賞できる機会を増やすとともに、情報提供の充実を要望する意見が多い。 歴史・文化に触れる機会の増加を望む声がある。 市立植野記念美術館の展示内容として、比較的柔らかいもの(タレント性のある作家等)や印象派の洋画の展覧会希望も多い。 市立植野記念美術館としての地域性を活かした企画を進めていく必要がある。

4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、地域の伝統行事の中止をはじめ、美術館・歴史民俗資料館・氷上回廊水切れフィールドミュージアムの臨時休館や文化ホール事業の延期、市総合文化祭の中止などにより、歴史・文化・芸術に触れる機会が減少した。地域に対する誇りや愛着などのふるさと意識の醸成を図るためにも、これらの取組を継続・拡充していく必要がある。 市内文化ホールに来館したことがある市民の割合は、令和3年度は前年度に比べ微増になっていることから、ウイズコロナでの舞台芸術鑑賞の意識が高まってきたと考えられる。 美術館においては来館者の満足度は高いが、目標とする入館者数には達していない。目安として言われる市民人口の2割の集客には達しているものの、やはり、普段は美術館に来られないような人々をも惹きつけるような企画立案とともに、館の個性である地域性や中国現代美術などの特色ある館蔵作品を活かして、当館ならではの個性的な展示をめざす必要がある。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を十分行いながら、安全・安心に文化芸術活動を継続する必要がある。 令和2年2月に策定した「丹波市文化芸術推進基本計画」の進捗状況を共有し成果の見える化に努めるとともに、関係団体等と連携・協働を図り、市の文化芸術を推進する。 第3回丹波アートコンペティションは、出品数・来場者数が前回よりは微減したが、個性的な作品を観覧する機会の創出につながっている。今後もアートコンペティションを継続開催し、市民の文化芸術活動推進の核となるよう魅力を高めていく。
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	<ul style="list-style-type: none"> 歴史民俗資料館を整理統合し効率的な運営を図るため、令和4年度末をもって老朽化が著しい青垣歴史民俗資料館を廃止する。

5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<ul style="list-style-type: none"> 市直営で行っている文化ホールの運営は、高い専門性が必要であり、市直営で継続的に文化ホールを運営することが困難な状況になっている。このことから、“丹波市ならではの”ホール運営を継続して行うことができる新たなホール運営団体の組織づくりについて関係者と協議・検討を行う。 美術館・歴史民俗資料館・氷上回廊水切れフィールドミュージアムを支えるボランティア組織等の協力を得ながら、ICT機器等を活用し各館が協働した事業を展開することによりふるさと意識の醸成を図る。 有形・無形文化財をはじめ多くの貴重な歴史文化遺産に対して、市民の理解、関心や保護意識の高揚を図る事業展開を行う。 美術館では、中国現代美術作品などの特色ある館蔵作品を活かして、集客にも配慮しながら当館ならではの個性的な展覧会をめざす。また、鑑賞教室等を積極的に受け入れ、市内学校等の利用促進を図るとともにYouTube動画による時代に即した情報発信を行う。
-------------------------	---

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	ホール運営事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度
	所属長 宮野 真理	担当 近藤 信悟	担当 十倉 磨呂美

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化芸術振興基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律、丹波市立文化ホール条例、丹波市文化芸術推進基本計画	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	一般市民及び舞台芸術等文化活動を行っている市民		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール事業に積極的に参画してもらう機会(鑑賞、事業への参加、オペレーター登録)をつくることで、舞台芸術に関心のある市民層を増やし、舞台芸術に対する市民意識を高める。 ・ホール事業を通じて舞台芸術文化団体等の支援を行い、活動を活性化させる。 ・小中学生に舞台芸術鑑賞の機会を増加することで、豊かな感性や鑑賞マナーを養う。 		
	概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型公演(著名アーティストコンサート等)、県民芸術劇場、ピックアップアーティスト公演(市内出身のアーティスト起用)、自主映画会(年度内3回)、スタインウェイピアノ試奏会(不定期)の開催 ・実施方法: 直接実施 ・アマチュアアーティスト育成支援事業(バンド、ピアノ、ダンス、和太鼓の各フェスタ)実施 ・実施方法: 業務委託 ・委託先: アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会 		
	令和3年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型公演、県民芸術劇場、ピックアップアーティスト公演、自主映画会、スタインウェイピアノ試奏会(不定期)の開催 ・アマチュアアーティスト育成支援事業(バンド、ピアノ、ダンス、和太鼓の各フェスタ)実施 	令和4年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型公演、県民芸術劇場、ピックアップアーティスト公演、自主映画会、スタインウェイピアノ試奏会(不定期)の開催 ・アマチュアアーティスト育成支援事業(バンド、ピアノ、ダンス、和太鼓の各フェスタ)実施

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
(評価年度は実績、計画年度は予算)								
歳出	総事業費 A+B	21,722	28,255	35,242	36,662	36,662	36,662	
	直接事業費A	12,444	8,826	15,653	17,073	17,073	17,073	
	総人件費計(E+H) B	9,278	19,429	19,589	19,589	19,589	19,589	
	職員従事者数(人・年) C	0.87	1.88	1.75	1.75	1.75	1.75	
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620	
	人件費 E=C×D	6,438	14,025	13,335	13,335	13,335	13,335	
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	1.42	2.29	2.65	2.65	2.65	2.65	
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	
	人件費 H=F×G	2,840	5,404	6,254	6,254	6,254	6,254	
歳入	特定財源	2,908	3,907	4,078	3,313	3,313	3,313	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	0	
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	2,635	2,253	3,865	3,125	3,125	3,125	
	その他特財	273	1,654	213	188	188	188	
一般財源	18,814	24,348	31,164	33,349	33,349	33,349		

実施 (DO)	指標名	単位	目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
			実績							
成果	1年以内に市内の文化ホールなどが行う舞台芸術・音楽コンサートへ入ったことのある市民の割合	%	目標	50.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	
			実績	37.9	26.1	31.1				
成果	自主事業鑑賞者数	人	目標	7,000	3,000	6,000	6,000	6,000	6,000	
			実績	4,920	2,294	2,296				
成果	ボランティアオペレーター数	人	目標	90	90	90	90	90	90	
			実績	51	43	43				
成果	高校生以下の鑑賞者満足度	%	目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
			実績	76.8	92.0	92.0				
コスト			目標							
			実績							

指標の推移等の背景・分析

- ・令和2年度・3年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、公演実施にあたり座席制限や公演延期などの対応が求められたため、鑑賞者数が減少している。
- ・ホールに来館したことのある市民の割合は令和3年度は前年度に比べ微増となっており、ウィズコロナでの舞台鑑賞の意識が高まってきたことが理由と考えられる。
- ・舞台を支えるオペレーター数が減少している。オペレーターとしての活動機会の減少が要因の1つと考えられる。

事務事業名	ホール運営事業				
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期	年度	

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律において、地方自治体が芸術文化施策を策定し、劇場音楽堂等を積極的に活用しつつ事業を実施することが定められており、市民の文化芸術意識の向上を図るためホールを活用することが求められている。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	自主事業鑑賞者数は成果指標に掲げる目標には届いておらず、減少傾向にある。令和元年度以降は、新型コロナウイルスの影響も一つの要因であると考ええる。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	B	・幅広い年齢層が参画できる事業内容を企画しており、公平性は担保できている。 ・入場料は来場しやすいように、他市と比較し低料金で設定しているが、入場料金の設定について出演者と協議を行い、都度精査する。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）					
		<p>・ホールへ行ったことのある市民の割合や自主事業鑑賞者数が減少しているため、コロナ禍でも安心して鑑賞できる環境づくりをPRし、舞台芸術の鑑賞意欲が高まるような幅広い年代が楽しめる公演内容を企画する。</p> <p>・舞台オペレーターの会員充実を図るため、現会員の活躍機会の創出や活動の見える化によるモチベーションの向上と、舞台オペレーターの魅力発信が必要である。</p> <p>・高校生以下の満足度は目標に近い数値となっており、継続して若い世代が楽しめる催し物を開催する。</p>				
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性				
	<p>・来場者のアンケートを継続して実施し、舞台芸術へのニーズを把握し、観客の増員につながる催し物を開催する。</p> <p>・子育て世代や高齢者層のニーズを掘り起こし、年代のニーズに応じた催し物の開催を企画する。</p> <p>・舞台オペレーターの魅力を発信するため、中学生からでも気軽に参加できるようなカリキュラムによる体験講座を実施する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染防止と「新しい生活様式」に対応するため、オンライン配信環境の整備を進める。</p>	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充					✓	
現状維持						
縮小						
休廃止						
		コスト投入の方向性				

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	ホール運営事業	8,826	15,653	17,073	17,073	17,073	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	8,826	15,653	17,073	17,073	17,073	

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	ホール管理事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度
	所属長 宮野 真理	担当 近藤 信悟	担当 十倉 磨呂美

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	丹波市立文化ホール条例、丹波市立文化ホール条例施行規則、文化芸術振興基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律、丹波市文化芸術推進基本計画	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	市内文化ホール(ライブピアいちじま大ホール、春日文化ホール)、ホール利用者		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	本市が直営する市内文化ホールの適正な維持管理		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台吊物、照明、音響、空調等設備機器及び防火対象物等の保守点検 ・実施方法:業務委託 ・委託先:各設備取扱業者 ・設備機器の修繕・工事、備品の整備等保全管理 ・ホール利用時の設備機器操作対応 ・文化ホール事業推進会議の開催 		
	令和3年度の 事業概略	ライブピアいちじま大ホール及び春日文化ホールの維持管理	令和4年度の 事業概略	ライブピアいちじま大ホール及び春日文化ホールの維持管理

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	25,244	22,940	25,461	24,570	24,570	24,570				
	直接事業費 A	18,408	15,933	21,553	20,662	20,662	20,662				
	総人件費計(E+H) B	6,836	7,007	3,908	3,908	3,908	3,908				
	職員従事者数(人・年) C	0.54	0.49	0.20	0.20	0.20	0.20				
	【平均人件費】 D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620				
	人件費 E=C×D	3,996	3,655	1,524	1,524	1,524	1,524				
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	1.42	1.42	1.01	1.01	1.01	1.01				
	【平均人件費】 G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H=F×G	2,840	3,351	2,384	2,384	2,384	2,384					
歳入	特定財源	3,192	1,782	4,812	1,993	1,993	1,993				
	国・県支出金	0	390	2,606	403	403	403				
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0				
	受益者負担金	3,192	1,392	2,206	1,590	1,590	1,590				
	その他特財	0	0	0	0	0	0				
一般財源	22,052	21,158	20,649	22,577	22,577	22,577					
実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	活動	設備機器等の修繕件数 (ライブピアいちじま)	回	目標	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
				実績	5.0	4.0	3.0				
	活動	設備機器等の修繕件数 (春日文化ホール)	回	目標	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
				実績	1.0	4.0	5.0				
	成果	文化ホールでの事故件数	回	目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
				実績	0.0	0.0	0.0				
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
実績											
指標の推移等の背景・分析	春日文化ホールの修繕は、目標値を上回る結果となった。保守点検等による指摘事項の対応修繕が3件、緊急対応が2件となっており、設備の経年による修繕が増加している。										

事務事業名	ホール管理事業				
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期	年度	

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。		A	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律において、地方自治体が芸術文化施策を策定し、劇場音楽堂等を積極的に活用しつつ事業を実施することが定められており、市民の文化芸術意識の向上を図るためホールを活用することが求められている。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	保守管理を適切に実施することで、突発的な修繕を予防している。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	B	全ての使用者に使用料を徴収しており、受益者負担を適切に求めている。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)																																			
		<ul style="list-style-type: none"> 適切な保守管理を行い、適切な予防修繕を実施することで、安全な管理ができています。 経年に伴い突発的な修繕が増えてくることが懸念される。 保守管理や修繕に係るコストが年々増加していくことが懸念される。 																																		
	今後の方向性・改善策等 <ul style="list-style-type: none"> 適切な保守管理に加え、日常点検を実施し、不良個所の早期発見に努める。 設備機器の予防修繕及び更新を計画的に実施する。 建物の一括管理など、コスト縮減につながる方策を検討する。 	成果・コストの方向性 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>成果の方向性</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td colspan="4">コスト投入の方向性</td> </tr> </table>					皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充					現状維持			✓		縮小					休廃止					コスト投入の方向性			
	皆減	縮小	現状維持	拡大																																
成果の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充					現状維持			✓		縮小					休廃止					コスト投入の方向性														
拡充																																				
現状維持			✓																																	
縮小																																				
休廃止																																				

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	ホール管理事業	15,933	21,553	20,662	20,662	20,662	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		15,933	21,553	20,662	20,662	20,662	

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	芸術文化振興事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度
	所属長 宮野 真理	担当 十倉 磨呂美	担当

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化芸術振興基本法、丹波市アートコンペティション実行委員会設置要綱、丹波市俳人細見綾子ふるさと文化振興基金条例、丹波市文化芸術推進基本計画	

計画 (PLAN)	対象（誰を、何を）	各文化協会会員・各郷土民謡保存会会員、芸術文化に親しもうとする市民	
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	丹波市文化協会、丹波市郷土民謡保存協会をはじめとする文化団体の活動を支援し、文化芸術に関わる活動を強化することで、団体の自立を促進させるとともに、本市の文化芸術活動に関する情報発信を促進する。	
	概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波市文化協会、丹波市郷土民謡保存協会をはじめとする芸術文化団体のへ補助金交付及び活動支援 ・丹波アートコンペティション（丹波市展）の開催により、文化芸術の裾野拡大とモチベーションアップを図る。 ・実施方法：直接実施 ・丹波市俳人細見綾子生家の整備、維持管理及び丹波市俳人細見綾子ふるさと文化振興基金管理 ・丹波市文化芸術推進基本計画の進捗管理 	
	令和3年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会、郷土民謡保存協会への運営補助 ・丹波アートコンペティションの開催 ・細見綾子生家維持管理 ・文化芸術サロンの実施（文化芸術推進基本計画に基づく新規事業の展開） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会、郷土民謡保存協会への運営補助 ・丹波アートコンペティションの開催 ・細見綾子生家維持管理 ・文化芸術サロンの実施（文化芸術推進基本計画に基づく新規事業の展開） ・文化芸術体験講座（はじめの一步講座）の実施

コスト（単位：千円） (評価年度は実績、計画年度は予算)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
歳出	総事業費 A+B	29,153	20,987	19,877	24,017	24,017	24,017	
	直接事業費 A	13,265	9,305	8,496	12,636	12,636	12,636	
	総人件費計 (E+H) B	15,888	11,682	11,381	11,381	11,381	11,381	
	職員従事者数 (人・年) C	2.12	1.49	1.41	1.41	1.41	1.41	
	(平均人件費) D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620	
	人件費 E=C×D	15,688	11,115	10,744	10,744	10,744	10,744	
	会計年度任用職員従事者数 (人・年) F	0.10	0.24	0.27	0.27	0.27	0.27	
	(平均人件費) G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	
人件費 H=F×G	200	566	637	637	637	637		
歳入	特定財源	6,569	1,127	990	2,276	2,276	2,276	
	国・県支出金	0	0	0	952	952	952	
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	506	552	503	546	546	546	
	その他特財	6,063	575	487	778	778	778	
一般財源	22,584	19,860	18,887	21,741	21,741	21,741		

実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	
成果	丹波市文化協会会員数	人	目標	3,500	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	
			実績	2,640	2,533	2,287				
成果	丹波市郷土民謡保存協会会員数	人	目標	500	400	400	400	400	400	
			実績	369	358	343				
成果	丹波アートコンペティション作品応募数(市民のみ)	点	目標	170	170	170	170	170	170	
			実績	105	94	90				
成果	文化芸術サロン参加者数	人	目標	-	100	100	100	100	100	
			実績	-	107	65				
コスト			目標							
			実績							

指標の推移等の背景・分析

- ・文化協会、郷土民謡保存協会ともに会員数の減少となった。コロナ禍の影響で活動が大幅に制限され、会員の意欲低下等が要因となっている。
- ・丹波アートコンペティションの市民出品数は減少傾向となっているが、令和2年度と比較し令和3年度は、市民の出品割合は横ばいで推移している。
- ・サロン事業は、令和2年度に続き、子育て世代向け芸術鑑賞会を実施。アウトリーチ型で青垣・山南地域で実施した。

事務事業名	芸術文化振興事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	・文化芸術推進基本計画において「文化芸術活動が活発に行える環境整備を行う」ことを目標に掲げており、文化団体の育成や展覧会の開催などを行う必要がある。 ・アートコンペティションやサロンの開催により、市民の文化芸術活動の機会となることから、市が施策として実施すべきである。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	・文化団体の高齢化や、後継者不足に伴い会員数が減少しているが、持続可能な活動を実施されている。 ・アートコンペティションの出品数は微減であるが、市民の出品割合は横ばいで推移しており、市民の活動発表の機会になっている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	文化団体への活動は市民が誰でも参画でき、地域文化祭の開催など、市民が広く芸術活動に触れる機会を提供できている。

総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)																																								
改革 (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"> 文化団体は、コロナ禍であっても、令和2年度に実施できなかった地域文化祭や民謡のつどいなどを令和3年度は実施しており、活動発表の機会の創出に取り組まれている。会員確保のため、活動しやすい環境づくりを構築していくための支援を幹部の方々と検討していく必要がある。 3回目を迎えた丹波アートコンペティションは、2回目よりも出品数は減少したが、1回目よりは出品数は増加しており、事業の定着化を図れている。成果指標に掲げている市民参画をどのように増やしていくかが課題である。 文化芸術サロン事業の一つである子育て世代向けサロンとして、子育て学習センターと共催により、令和2年度の春日地域に続き、令和3年度は青垣、山南地域で実施をすることができた。事業参画の増加に向けた取り組みと定着化を図るため、子育てセンター指導員と連携を強化することが必要である。 気軽に市民が文化芸術活動を体験する機会を創出し、アートコンペティションや各文化協会への参画につなげる取り組みが必要である。 																																							
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化団体への補助については、会員数の減少に歯止めをかけ、活動の維持向上を図っていくうえでも、支援を継続していく。 丹波アートコンペティションは、市民の参画を増やす企画を検討・実施する。 子育てアートサロンを継続開催し、会員のニーズを捉え、参加しやすい催し物になるよう、子育て学習センター指導員と事業計画を協働で進めていく。 文化芸術活動に気軽に参加できる機会づくりのため、初心者向け体験講座「はじめの一步」講座シリーズを展開していく。 																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">成果の方向性</th> <th>拡充</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>現状維持</th> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <th>縮小</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>休廃止</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="4">コスト投入の方向性</th> </tr> </tbody> </table>			成果・コストの方向性						皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充					現状維持			✓		縮小					休廃止							コスト投入の方向性			
		成果・コストの方向性																																						
		皆減	縮小	現状維持	拡大																																			
成果の方向性	拡充																																							
	現状維持			✓																																				
	縮小																																							
	休廃止																																							
		コスト投入の方向性																																						

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	俳人細見綾子生家管理事業	371	394	669	669	669	
2	芸術文化団体育成事業	5,786	5,293	7,277	7,277	7,277	
3	丹波市俳人細見綾子ふるさと文化振興基金管理事業	204	102	109	109	109	
4	芸術文化振興事業	64	110	1,134	1,134	1,134	
5	市展開催事業	2,880	2,597	3,447	3,447	3,447	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	9,305	8,496	12,636	12,636	12,636	

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	文化財管理・保存事業					
事業担当課	教育部	社会教育・文化財課	事業期間		令和 2 ~ 無期	年度
	所属長	山内 邦彦	担当	荻野 裕	担当	西岡 真理

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化財保護法、県文化財保護条例、市文化財保護条例、市指定文化財保存整備等補助交付要綱	

計画 (PLAN)	対象 (誰を、何を)	文化財や地域に残る歴史的文化的遺産の所有者と管理者、及び文化財や歴史に興味や関心を持つ人		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	文化遺産を将来にわたって良好な状態で管理・保存するため、 ・文化遺産がまちづくりにおける歴史的、文化的な核に位置づけられるようにしていく。 ・文化遺産がまちづくりの重要な資源として利活用され、保護・伝承していく意識を高められるようにする。		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・市が所有、管理する指定文化財の適正な管理・保存 ・市内の指定文化財所有者・管理者へ保護と管理の指導や保存整備のための補助金を交付 ・文化財保護審議会の開催 ・古文書等歴史文化資料の調査活動の展開 		
	令和3年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存修理事業 ・文化財の維持、管理事業 ・歴史講座の開催 	令和4年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存修理事業 ・文化財の維持、管理事業 ・歴史講座の開催

コスト (単位: 千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A + B	64,007	54,677	48,446	54,786	54,822	54,822				
	直接事業費 A	50,169	39,757	21,624	27,964	28,000	28,000				
	総人件費計 (E + H) B	13,838	14,920	26,822	26,822	26,822	26,822				
	職員従事者数 (人・年) C	1.87	2.00	3.52	3.52	3.52	3.52				
	【平均人件費】 D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620				
	人件費 E = C × D	13,838	14,920	26,822	26,822	26,822	26,822				
	会計年度任用職員従事者数 (人・年) F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
	【平均人件費】 G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H = F × G	0	0	0	0	0	0					
歳入	特定財源	26,576	17,057	1,004	865	1,000	1,000				
	国・県支出金	16,876	9,653	1,000	865	1,000	1,000				
	借入金 (地方債)	0	7,400	0	0	0	0				
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0				
	その他特財	9,700	4	4	0	0	0				
一般財源	37,431	37,620	47,442	53,921	53,822	53,822					
実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	活動	文化財保存整備補助金 交付件数	件	目標	16	3	3	3	3	3	
				実績	11	3	2				
	活動	歴史講座等の実施回数	回	目標	6	6	6	6	6	6	
				実績	8	7	7				
				目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
実績											
指標の推移等の背景・分析		指定文化財保存整備等補助金の活用については、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、減少したままである。									

事務事業名	文化財管理・保存事業		
事業担当課	教育部 社会教育・文化財課	事業期間	令和 2 ～ 無期 年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。		A	文化財保護法に基づき本市に所在する文化財を保護するとともにその活用を図り、市民の文化的意識の向上を図るためにも、必要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	文化財を維持管理する人が高齢化しており、郷土の文化財に対する若者の意識を高めるためにも、文化財活用を推進する必要がある。これには子どもたちに地域の歴史遺産に関心を持たせるようにするため、地域や学校と連携を図る必要がある。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	指定文化財の保存等に係る補助事業の実施については、所有者からの要望書の内容や緊急性を確認し、優先順位を決定している。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）					
		<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の保護、維持管理の支援に留まることなく、未指定文化財の調査等を推進し、市内全体の文化財の保護・活用を推進する必要がある。 市民に文化財や歴史遺産に関心を持ってもらう事業や文化財を利活用した取組を推進し、後世に歴史遺産を残していく仕組みづくりを充実させる必要がある。 個々の文化財を「点」として保存することから地域の文化財を「面」として一体的に整備し、保存活用する発想の転換が求められている。 				
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性				
	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の指定・未指定を問わず、その周辺環境も含めた保存・活用を図るため、今後において基本的な指針を整理するために必要な事業を進めていく。 積極的な活用（会議・イベント等）に適した文化財をリストアップし、地元自治会や観光部署、関係社会教育施設と連携してその活用を推進する。 	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
					✓	
		コスト投入の方向性				

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	文化財管理・保存事業	19,698	21,624	27,964	28,000	28,000	
2	文化財整備事業	20,059					
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	39,757	21,624	27,964	28,000	28,000	

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	埋蔵文化財調査事業					
事業担当課	教育部	社会教育・文化財課	事業期間		令和 3 ~ 無期	年度
	所属長	山内 邦彦	担当	荻野 裕	担当	西岡 真理

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化財保護法、県文化財保護条例、市文化財保護条例、市指定文化財保存整備等補助交付要綱	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	埋蔵文化財試掘・発掘調査出土遺物		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	これまでに試掘、発掘調査で出土した膨大な遺物を整理し、報告書刊行のための基礎資料にするとともに、これらを展示・公開することで保存活用を図る。		
	概要 (具体的手段・全体計画)	開発等に伴い必要となる埋蔵文化財の試掘・発掘調査及びこれまでの試掘・発掘調査で出土した遺物の洗浄、注記、復元、実測、図面トレース、写真撮影等の整理作業を行う。		
	令和3年度の 事業概略	試掘調査、報告書の作成・準備を行う。	令和4年度の 事業概略	試掘・分布調査、報告書の作成・準備を行う。

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	5,867	6,777	5,958	6,616	6,616	6,616				
	直接事業費A	3,869	3,718	2,072	2,730	2,730	2,730				
	総人件費計(E+H) B	1,998	3,059	3,886	3,886	3,886	3,886				
	職員従事者数(人・年) C	0.27	0.41	0.51	0.51	0.51	0.51				
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620				
	人件費 E=C×D	1,998	3,059	3,886	3,886	3,886	3,886				
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H=F×G	0	0	0	0	0	0					
歳入	特定財源	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500				
	国・県支出金	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500				
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0				
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0				
	その他特財	0	0	0	0	0	0				
一般財源	4,367	5,277	4,458	5,116	5,116	5,116					
実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	活動	試掘・確認調査件数	件	目標	11	13	13	10	10	10	
				実績	9	6	6				
	成果	報告書の作成	冊	目標	1	1	1	1	2	2	
				実績	1	1	1				
				目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	指標の推移等の背景・分析			<ul style="list-style-type: none"> ・試掘・確認調査は、開発場所や対象の内容により、実施の有無を決定するため、目標値(見込)と実績値に大幅な乖離がみられる年度がある。 ・ここ数年は、試掘・確認調査を要する開発が減少したため件数が減少した。 							

事務事業名	埋蔵文化財調査事業			
事業担当課	教育部 社会教育・文化財課	事業期間	令和 3 ~ 無期	年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	文化財保護法に基づく埋蔵文化財の調査は、該当しない市民には直接影響しない事業であるが、国や本市の歴史と文化の成り立ちを理解するうえで欠くことのできないものであり、市内の地下遺構である文化財を保護する点においては、重要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	発掘調査報告書の刊行に向けて、出土遺物の整理を進めているが、その量が膨大であり、目下人員不足による理由から、報告書の刊行に遅れが生じている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	開発等に伴い発生する埋蔵文化財の試掘・確認調査の費用は、文化財保護法の規定により各市町村が行うとされ、試掘・確認調査の結果、本発掘調査が必要とされた場合の費用負担は原則として開発者等による原因者負担としている。

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）	
改革 (ACTION)	<p>・少ない職員配置の中で開発等に伴い発生する埋蔵文化財試掘調査（発掘された遺物整理を含む）に従事しなければならない状況にあり、過去の発掘調査で出土した遺物の記録図面の作成や報告書刊行、資料館等での公開・展示に向けた整理が必要となっている。</p> <p>・市民が埋蔵文化財を通して地域の歴史を知る機会を提供していくためには、埋蔵文化財の調査から出土した遺物の目録作成等までを一貫して行う効率的な管理運用体制の構築が求められ、出土遺物をいつでも公開・展示できるようにしておくためのデータベース化が求められる。</p>
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <p>課題となっている調査報告書の刊行を計画的に進めていくため、課内に社会教育係を新設し、これまで文化財係が管理していた青垣いきものふれあいの里及び氷上回廊水分けフィールドミュージアムの管理に関する業務を当該係が引き継ぐことで、遺物のデータベース化や調査報告書の作成等、学芸員の調査研究に関する時間を確保する。</p>

		成果・コストの方向性			
		皆減	縮小	現状維持	拡大
成果の方向性	拡充	/		✓	
	現状維持				/
	縮小				/
	休廃止				/

コスト投入の方向性

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	埋蔵文化財調査事業	3,718	2,072	2,730	2,730	2,730	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		3,718	2,072	2,730	2,730	2,730	

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	歴史民俗資料館管理・運営事業		
事業担当課	教育部 社会教育・文化財課	事業期間	令和 2 ~ 無期 年度
	所属長 山内 邦彦	担当 徳原 由紀子	担当 足立 恵一

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち	
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう	
	創生総合戦略	基本目標	【3】地域の魅力や人のつながりを活かして移住・定住につなげる	
		施策	【3-2】 地域資源の魅力を活かす	
	まちづくりビジョン	取組項目		
	根拠法令・個別計画等	丹波市立歴史民俗資料館条例、丹波市立歴史民俗資料館条例施行規則、丹波市立氷上回廊水分けフィールドミュージアム条例、丹波市立水分けフィールドミュージアム条例規則		

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	丹波市の歴史を知りたい市内外の人々、指定文化財及び未指定の地域に残る文化遺産		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	市民に対し、市の地域資源(歴史・文化、氷上回廊を取り巻く環境等)に触れる機会を設けることにより、 ・市民が本市の歴史・文化遺産・ゆかりの人物について理解が深められるようにする。 ・市民に地域に対する誇りや愛着の心(ふるさと意識)を醸成する。		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> 各資料館の管理運営、企画展の開催 氷上回廊水分けフィールドミュージアムの管理運営、企画展及び各種イベントの開催 社会教育施設と教室を繋ぐ博学連携事業の実施 		
	令和3年度の 事業概略	企画展・講座・各種イベントの開催	令和4年度の 事業概略	企画展・講座・各種イベントの開催 社会教育施設と教室を繋ぐ博学連携事業の推進

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	53,873	307,060	58,312	59,486	60,491	60,491				
	直接事業費A	28,933	277,112	29,822	30,996	29,793	29,793				
	総人件費計(E+H) B	24,940	29,948	28,490	28,490	30,698	30,698				
	職員従事者数(人・年) C	3.10	3.54	2.50	2.50	2.48	2.48				
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620				
	人件費 E=C×D	22,940	26,408	19,050	19,050	18,898	18,898				
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	1.00	1.50	4.00	4.00	5.00	5.00				
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H=F×G	2,000	3,540	9,440	9,440	11,800	11,800					
歳入	特定財源	19,136	181,960	5,575	1,866	1,807	1,807				
	国・県支出金	6,600	51,275	3,336	0	0	0				
	借入金(地方債)	11,200	126,500	0	0	0	0				
	受益者負担金	1,336	1,006	1,599	1,866	1,657	1,657				
	その他特財	0	3,179	640	0	150	150				
一般財源	34,737	125,100	52,737	57,620	58,684	58,684					
実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	成果	氷上回廊水分けフィールドミュージアム年間入館者数	人	目標 実績	- -	- 3,913	30,000 33,025	30,000	30,000		
	成果	歴史民俗資料館入館者数	人	目標 実績	7,000 8,596	7,000 3,385	6,000 5,569	6,500	6,500	7,000	
				目標 実績							
				目標 実績							
	コスト	入館者1人あたりの資料館運営コスト	円	目標 実績	22,105.6 6,267.2	39,380.8 41,749.8	1,918.1 1,510.9	1,629.8	1,657.3	1,634.9	事業費 入館者数
	コスト			目標 実績							
	指標の推移等の背景・分析	氷上回廊水分けフィールドミュージアムは令和3年3月のリニューアルオープンの効果もあり、コロナ禍であっても目標入館者数を達成することができた。									

事務事業名	歴史民俗資料館管理・運営事業		
事業担当課	教育部 社会教育・文化財課	事業期間	令和 2 ~ 無期 年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	市民や子どもたちへのふるさと意識の醸成を図るためにも、文化財や氷上回廊を貴重な地域資源に位置づけし、その魅力を発信し続ける施設として必要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A	市内歴史民俗資料館では、利用状況に合わせて開館日を柔軟に設定し、運用面での効率化とコスト削減を図っている。
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	A	・市民参画による資料館の開館及び企画展の開催により、市民と行政が一体となった運営ができています。 ・市内歴史民俗資料館には学芸員の常駐がなく、積極的な活用が難しいことから、施設の整理統合により効率的な運営が求められる。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	B	・各種イベントには参加料を徴収することで公平性を確保している。 ・館蔵資料の商業利用について、使用料を求めることも今後検討する必要がある。

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																																								
改革 (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"> ・氷上回廊水分けフィールドミュージアムは、年間入館者数3万人を達成することができた。 ・氷上回廊水分けフィールドミュージアムでは、青垣いきものふれあいの里と重複したワークショップなどが開催されている。 ・資料館運営では、郷土史研究会と連携した企画展示や、ボランティアによる市島民俗資料館の開館など、コストを意識した歴史資料の活用が図れている。 ・各資料館では、市民の来館が少ない傾向にある。 ・各資料館や市内フィールドには、貴重な歴史資料や自然地形など他にはない唯一無二のものが存在するが、このことが多くの市民に知られていない状況にある。 																																							
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内資料館及び氷上回廊水分けフィールドミュージアムにおいて、市が所有する貴重な歴史資料等をまずは「市民が知る」ための運営を検討する。 ・電子黒板やタブレットなどのICT機器を活用し、水分けをはじめとする地域資源と教室をつなぐ遠隔授業を積極的に推進することで、子どもたちのふるさと意識の醸成を図る。 ・郷土史研究会等との連携・協力を深め、資料館の資料や施設が有効活用される企画を行う。 ・氷上回廊水分けフィールドミュージアムと青垣いきものふれあいの里とのすみわけ及び連携した事業運営を行うことで相乗効果を図る。 																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">成果の方向性</th> <th>拡充</th> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <th>現状維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>縮小</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>休廃止</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="4">コスト投入の方向性</th> </tr> </tbody> </table>			成果・コストの方向性						皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充			✓		現状維持					縮小					休廃止							コスト投入の方向性			
		成果・コストの方向性																																						
		皆減	縮小	現状維持	拡大																																			
成果の方向性	拡充			✓																																				
	現状維持																																							
	縮小																																							
	休廃止																																							
		コスト投入の方向性																																						

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	歴史民俗資料館等管理事業	6,824	10,960	11,203	10,000	10,000	
2	氷上回廊水分けフィールドミュージアム拠点整備事業	262,141					
3	氷上回廊水分けフィールドミュージアム管理運営事業	6,224	17,667	19,793	19,793	19,793	
4	歴史民俗資料館等管理事業（繰越分）	1,923					
5	氷上回廊水分けフィールドミュージアム管理運営事業（繰越分）		1,195				
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	277,112	29,822	30,996	29,793	29,793	

丹波市総合計画 令和 3 年度事務事業評価 / 令和 4 年度実施計画

事務事業名	美術館管理運営事業					
事業担当課	教育部	植野記念美術館	事業期間		平成 16 ~ 無期	年度
	所属長	山内 邦彦	担当	高見 弘子	担当	永山 宗史

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち	
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう	
	創生総合戦略	基本目標	【3】地域の魅力や人のつながりを活かして移住・定住につなげる	
		施策	【3-2】 地域資源の魅力を活かす	
	まちづくりビジョン	取組項目		
	根拠法令・個別計画等	教育基本法、社会教育法、博物館法、文化財保護法、文化芸術振興基本法、著作権法、丹波市文化芸術推進基本計画 他		

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	入館者、未入館者		
	目的	・市民がこころ豊かでいきいきとした生活を送れるようにする。		
	ベストな状態 (期待される効果)	・豊かな人間性と芸術に親しむ青少年を育成する。		
	概要 (具体的手段・全体計画)	・市民のニーズに応え、大衆性、芸術性のバランスを考えた質の高い展覧会の開催 ・地元ゆかりの作家展、美術館の特色を活かした展覧会の開催 ・ワークショップ、ミュージアムコンサート、講演会など感性を育む関連事業の実施 ・市内の保育施設、認定こども園、小学校、中学校を対象に鑑賞教室の実施 ・施設の維持管理及び改修方針の検討 ・市民への発信の注力		
	令和3年度の 事業概略	・優れた芸術を紹介する特別展の開催 ・地域の芸術を紹介する企画展の開催 ・講演会等関連事業の実施 ・鑑賞教室の開催 ・美術館友の会等生涯学習活動の支援	令和4年度の 事業概略	・優れた芸術を紹介する特別展の開催 ・館蔵作品展の開催 ・地域の芸術を紹介する企画展の開催 ・講演会等関連事業の実施 ・鑑賞教室の開催 ・美術館友の会等生涯学習活動の支援

コスト(単位:千円) (評価年度は実績、計画年度は予算)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
歳出	総事業費 A+B	62,946	73,666	69,810	87,514	87,514	87,514	
	直接事業費 A	32,746	34,386	36,649	47,594	47,594	47,594	
	総人件費計 (E+H) B	30,200	39,280	33,161	39,920	39,920	39,920	
	職員従事者数(人・年) C	3.00	4.00	3.11	4.00	4.00	4.00	
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,620	7,620	7,620	7,620	
	人件費 E=C×D	22,200	29,840	23,721	30,480	30,480	30,480	
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	
人件費 H=F×G	8,000	9,440	9,440	9,440	9,440	9,440		
歳入	特定財源	16,231	9,532	7,319	22,569	22,569	26,225	
	国・県支出金	0	0	509	0	0	0	
	借入金(地方債)	0	0	0	9,200	9,200	9,200	
	受益者負担金	4,920	8,425	5,728	7,369	7,369	7,369	
	その他特財	11,311	1,107	1,082	6,000	6,000	9,656	
一般財源	46,715	64,134	62,491	64,945	64,945	61,289		

実施 (DO)	指標名	単位	目標		実績		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度								
成果	植野記念美術館年間入館者数	人	目標	30,000	30,000	20,000	18,000	18,000	24,000					
			実績	16,185	17,874	16,470								
成果	展覧会に対する満足度	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
			実績	100.0	98.0	98.0								
成果	ワークショップ等イベントの参加率(充足率)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
			実績	85.0	61.9	69.0								
成果	美術館友の会年間会員数	人	目標	400	400	400	400	400	400.0					
			実績	333	227	208								
コスト			目標											
			実績											
コスト			目標											
			実績											
指標の推移等の背景・分析		・幅広い年代層を対象にしたアニメの展覧会、話題性のある絵本作家の展覧会、芸術性が高い浮世絵の展覧会、地域ゆかりの作家を紹介する展覧会を開催したが、当初の予定を超えることはできなかった。 ・ワークショップ等イベントの参加率(充足率)の減少は、コロナ禍の影響を受けているものと推測する。 ・友の会会員数は、コロナ禍により関連イベントが中止になり、美術館めぐり等の研修も中止になったため、大幅に減少したと推測する。												

事務事業名	美術館管理運営事業				
事業担当課	教育部 植野記念美術館	事業期間	平成 16 ~ 無期	年度	

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について					
評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	・学校教育において大きな教材となっている。 ・市民の芸術活動の発表の場として活用されている。 ・丹波市ゆかりの優れた芸術家の作品や、創設者の植野藤次郎が蒐集した中国、パプアニューギニア、現代美術作品等の保存・収蔵の場所として機能している。 ・都市部に行かなくても身近で芸術作品を鑑賞することができる。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B	・展覧会企画の多様化のなかで、企画会社の持込企画を減らし、地域性や館の個性を活かした自主企画展を増やすことで、コストの低減化を図っている。 ・環境の変化と施設の経年劣化に対応して、施設改修（LED改修・空調設備の改修等）を行った事により、電気料金等の使用料金の低減化を図れた。
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	・基本的に展覧会は啓蒙的な部分が大きく、また単なるイベント事業ではないため、観覧者層の広がりは大きくはない。成果指標の入館者数については伸び悩んでいる。しかし、可能な限り市民に来館してもらうため、企画内容の多様化を図る必要はある。 ・近年周辺市町にも新聞折込や有料広告等の広報に注力した結果、周辺自治体在住の人の観覧が着実に増えている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	観覧料や研修室の使用料については条例に基づき公平に負担してもらっている。

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																											
改革 (A) C T I O N	やはり、入館者数については大事な指標であり、常にその増加を見込むものではある。この点については企画内容の多様化、そして様々な施設や組織との連携や関連イベントの実施など複合的に事業内容の充実を目指して指標の充足に努めてきたが、当初の予定を超えることは出来なかった。																										
	今後の方向性・改善策等		成果・コストの方向性																								
	・次年度以降は、展覧会内容の充実はもとより、2階ギャラリースペースでの美術館企画での地域の作家の紹介展、友の会活動内での学習会、学校団体観覧に対する鑑賞教室の充実など、関連事業での活動の試行を行い、より多くの人々が、美術館において生涯学習への達成感と参加意識が持てる機会を増やし、入館者の増加と満足度の向上を目指す。 ・コロナ禍で、来館を差し控える傾向があるため、ホームページやFace bookだけでなく、YouTubeで植野記念美術館の魅力を発信し、時代に即した新しい美術館の在り方を検討していく。		成果の方向性 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> コスト投入の方向性		皆減	縮小	現状維持	拡大	拡充			✓		現状維持					縮小					休廃止			
	皆減	縮小	現状維持	拡大																							
拡充			✓																								
現状維持																											
縮小																											
休廃止																											

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	美術館管理運営事業	34,386	36,649	47,594	47,594	47,594	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	34,386	36,649	47,594	47,594	47,594	